14 山口県長門市（ながと）

農泊 | 農林漁業・農村文化体験 | 農福連携

特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山（たわらやま）

～誇りをもって住み続けたい思う地域に！～

民泊に参加した韓国の高校生たち

デイサービスの利用者とインターン生の交流

経　緯

○温泉業の斜陽化と集落の過疎高齢化に伴い、地域活力が急激に衰退したことをきっかけに、地域の有志が中心となり、俵山グリーンツーリズム推進協議会を設立。
○平成21年、活力ある地域作りを目指し、法人化。
○平成30年、集落営農法人連合体、株式会社アグリベンチャー俵山へ参加。

取組内容

○「スクールバスの運行」、「公共交通空白地有償運送」「デイサービス事業」、「食の自立支援」など、生活で不便性を感じさせない取組を展開。
○小中学生・高校生を対象に、民泊・農業体験を受入。30年度は、韓国・台湾の高校生、イタリアから専門学校生を受入れて交流。
○福祉事業を始め、環境整備、産業振興、地産地消、スポーツ・文化振興・教育など活動は多岐にわたる。

活動の効果

○地域における生活の利便性を確保する事業を展開することで、地区で生活する人達が不便性を感じることなく生活ができます。
○都市部の小・中・高校生との民泊、農業体験や接する機会のあまりない外国人との交流を通じ、地域の活性化に手応えを感じています。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在の事業を継続することで、生活利便性を向上し、移住者の増加などをめざします。また、ラグビーワールドカップのキャンプ地となったことを活用し、日本・世界へ俵山の良さについて情報発信し、俵山地域の活性化をめざします。

URL：http://tawarayama.jp

長門市俵山4497番地　Tel：0837-29-5070

15 山口県長門市（ながと）

環境保全・景観保全　食育・教育　6次産業化

特定非営利活動法人　ゆや棚田（たなだ）景観保存会

～ゆや棚田　魅せて！ 教えて！ 虜にさせて！～

全国棚田サミット150日前イベント：耕作放棄地再生農地へのハーブ入植

夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

経　緯

○全国棚田100選の選定地域であるが、高齢化・過疎化が進行し、耕作放棄地が増え棚田景観の維持・保全が困難。
○長門市棚田保護条例が制定され、地域での6次産業化やグリーンツーリズムへの気運の高まりをきっかけに設立。棚田保全計画を策定し、棚田景観の保全・継承に取り組む。

取組内容

○耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブ等のお花田計画など、棚田の保全活動を実施。また、収穫した農産物の米粉やハーブを使った加工食品を開発。
○小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。

活動の効果

○先人が守ってきた、棚田の景観保全を地域住民参加により実施することで、地元に対する愛着心や地域の和が生まれた。
○棚田や地域資源を活用したイベントを行い、都市住民と農村の交流を促進する事で、地域の活性化が図られた。
○交流カフェの開設で、高齢者が集まれる場所として、健康福祉へ寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

平成26年度からは、農林水産省の「美しい農村再生支援事業」を活用した近隣大学との学域連携による地域課題の洗い出しや、ブランド化の更なる促進に向けた活動展開を行い、美しい自然環境を利用した都市農村交流の拠点として、地域版「まち・ひと・しごと創生」のモデルとなるべく鋭意努力している。

URL：http://member.hot-cha.tv/~yuya-tanada/top.html

長門市油谷後畑1766番地　Tel：事務局0837-32-2056

16 山口県柳井市（やない）

農林漁業、農村文化体験 | 環境保全・景観保全 | 6次産業化

農事組合法人　ウエスト・いかち

～法人と地元でつくる里づくり～

景観作物（シバザクラ）の作付け

女性部による農産物の加工・販売

大学生のファームステイ

経　緯

○農業従事者の高齢化と担い手不足により、個別経営体による農地の集積・維持が困難であった。
○平成16年の圃場整備事業実施と合わせ集落営農の法人化を検討。
○平成18年に地域農地の保全を目的として「農事組合法人ウエスト・いかち」を設立。

取組内容

○共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
○農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
○大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。

活動の効果

○シバザクラによる農村集落の景観維持は、地域内の環境保全と都市と農村の交流に寄与し、地域の活性化と法人経営の安定に繋がっている。
○女性を中心とした四つ葉グループは、「やまぐち農山漁村女性起業ネットワーク」認定商品を生み出し、地元農産物を使った加工品は好評を得ている。
○農産物や加工品の販売を通じ、都市農村交流と地域活性化が図られている。
○大学生のファームステイの受け入れと、学園祭へ加工品の提供を行うことにより、都市農村交流と伊陸地域のＰＲに繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

大学生のファームステイ受入をきっかけとした都市部との交流は、地域の活性化に繋がり、伊陸の美味しい農産物のＰＲにも繋がりました。また、毎年１月に開催している「キャベツ祭り」では、旬のキャベツを始めとした伊陸の冬野菜、手作りの大豆コロッケ、寿司、炊き込みご飯の販売、豚汁試食などが好評をいただき、多くの来訪者で大盛況となっています。皆様も是非お越しください！

URL: http://westikachi.jp/　　柳井市伊陸7446-4　　Tel：0820-26-0780

17 山口県美祢（みね）市

環境保全・景観保全　雇用　食育・教育

農事組合法人ほんごうファーム

～ほ場整備と法人設立を両輪に中山間地農業の振興と地域の活性化を図る～

ほ場整備地区　全景

秋吉小学校3年生のシイタケ駒打ち体験

経　緯

○地域のほ場は未整備で、大型機械の導入が困難であり、農家の高齢化が顕著となる中、農地の荒廃や鳥獣害被害の拡大など、課題が山積の状況。

○５集落でまとまり、若者が農業に取り組みやすい環境を整備するため、ほ場整備実施と営農の受け皿として農事組合法人を設立。

取組内容

○ほ場整備を、農地バンクの活用や農事組合法人の営農の引受体制の整理により、地権者の合意を取り付けて実施。

○農事組合法人を設立し、農業経営改善計画認定や人・農地プラン策定により、新規就農者の雇用や、食育等の取組を実施。

○中山間地域直接支払交付金、多面的機能支払交付金の事務を５集落分まとめて取り組み、地域の農地を保全。

活動の効果

○ほ場整備の合意形成においては、徹底した議論を２年かけて行った結果、100%集積と田１枚当たり50ａを基本とした大規模ほ場化が実現。

○３名の農業大学校卒の新規就農者を雇用し、水稲、麦、大豆を基本に「梨」や「りんどう」などの法人独自品目にも取り組んでおり、今後の活躍に期待。

○冬期の営農品目としてシイタケ栽培に取り組み、これを小学生の体験学習に生かす取組とするほか、地域住民の交流の場として収穫祭を実施。

応募団体からのアピール・メッセージ

法人経営にはMVP（M ミッション（使命・目的）、V ビジョン（計画・立案）、P パッション（情熱））の精神を徹底し、活力ある法人経営に取り組んでいく決意。

美祢市秋芳町岩永本郷904－1　Tel：0837-62-0111

18 山口県周南市（しゅうなん）

環境保全・景観保全　伝統の継承　6次産業化

八代南土地改良区（やしろみなみ）

～「ツルと人・共生の里」再生構想をめざして～

八代へ渡来したナベツルの家族

県内外のボランティアと共に行うツルのねぐらづくり

経　緯

○周南市八代は、本州唯一のナベヅルの渡来地（越冬地）であるが、餌場となるほ場が荒廃し、ナベツルが減少。
○ツル保護とともに地域の人々が心豊かにくらす「ツルと人・共生の里」再生構想の一環として、地域の農業を支え、ツルに優しい農業を推進するため、八代南土地改良区を中心に地域の合意を形成。

取組内容

○ほ場には、生態系保全型水路やツルの歩きやすい法面傾斜を導入し、ツルの渡来時期には工事、草刈り等を一切行わないなど、ツルの生態に最大限配慮。
○冬期湛水、無農薬・無化学肥料、堆肥を活用した循環型農業による米の生産等、ツルの生態に配慮した営農に取り組む県内唯一の地域。
○水辺の教室開催やツルのねぐら作り。

活動の効果

○冬期湛水栽培、無農薬・無化学肥料、 ICT活用による酒米生産支援システムなどの取り組みにより、「ツルと人に優しい安心・安全な農産物の生産」が認められ、八代産の酒米を使用した日本酒も高い評価を受けている。
○小学校と連携し、生態系保全型水路で実施される「生きもの調査」では、きれいな水と判定されており、ツルと共に歩む農業によって豊かな自然環境が守られている。

応募団体からのアピール・メッセージ

周南市の定住促進事業を活用し、地区内外から定住する農業後継者の発掘・育成を推進し、「ツルと人に優しい安心・安全な農産物の生産」を基本に、規模拡大、品質向上、コスト削減を図り、6次産業化、女性の雇用などを視野に入れ活動していく。

周南市大字八代1902番地の1　　Tel：0833-91-0175

19 山口県周南市（しゅうなん）

農林漁業、農村文化体験

6次産業化

有限会社福田（ふくだ）フルーツパーク

～明るく　楽しく　美しい農業を目指して～

梨とぶどうの観光農園

ツリークライミング体験や外国人の農業体験

経　緯

○山口県周南市の北部に位置する須金地区は、ぶどう・梨の産地であり、40年以上続く観光農園が団地化（16戸）し、秋には県内外からの観光客で賑わいを見せている。

○2010年、現代表に経営移譲したことを契機に、消費者ニーズや時代の変化に柔軟に対応できるよう様々な取組を開始。

取組内容

○2006年から夏休みの自然体験宿泊イベント「いなかの学校」を実施。２日～３日の期間で小学生約30人を受入。

○2009年から農業体験と交流のNGO団体「WWOOF」を通じ、世界中から外国人の農業体験を受け入れている。

○2011年から自然とふれあうことを目的に、森のアーチェリー、ツリークライミングを開始。

○2015年からバーベキューの飲食営業を開始し、最大１日150人を受入。

活動の効果

○エンターテイメントな観光農園を目指し、地域資源の発掘及び情報発信を率先して行ってきた結果、自然体験やバーベキューを目的とした来訪者が年々増加し、都市農村交流と須金地区の活性化につながっている。

○地域全体の魅力を向上したことから、新規就農者も増加し、観光農園の園主の平均年齢が40歳代となり、観光農園の経営承継も順調に進んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

エンターテイメントな観光農園をめざし、夜間のライトアップ、宿泊設備の拡大など、ナイトタイムツーリズムの充実を図るほか、隣接する観光農園との連携強化とイチゴ栽培など新たな産地の形成に取組んでいきます。

URL：　https://www.fukuda-fp.com/

周南市須万2780番地　Tel：0834－86－2138

20 山口県周防大島町（すおうおおしま）

農林漁業、農村文化体験

角井（かどい） 雅之（まさゆき）

～売上1000万！暮らせる農業で産地振興～

角井　雅之

せ と み

経　緯

○神奈川県から父母の実家に帰省する度、祖父が営むみかん園で農作業を手伝う。

○農業への憧れが就農希望へと膨らんでいくが、父の教えもあり、会社員として就職。

○就職後も「みかん農家になりたい」との思いは変わらず、周防大島町やJA山口大島（現JA山口県周防大島統括本部）での研修を経て、平成24年4月に就農。

取組内容

○柑橘栽培では、露地とハウスを組み合わせ、せとみ、せとかなど10数種類を栽培。

○就農時は132aの園地でスタートし、その後、約360aへ規模を拡大。

○凍害のリスク分散のためハウス栽培を開始し、高収益を得られる品種へ更新

○積極的に園地を借り入れる一方、担い手確保のため新規就農者へ移譲。

活動の効果

○農地中間管理機構等の利用により、就農時より2倍超まで耕地面積を拡大し、農業経営を通じて国土保全と安定した農産物の供給などに寄与。

○規模拡大により、露地とハウスを組み合わせたリスク分散と高収益が見込める品種を始めとした10数種類の柑橘栽培が可能となり、就農時から約10倍に収益が向上。

○周防大島町農業委員、山口県農業士会青年理事を務める傍ら、就農希望者に対し、樹園地の提供、技術及び経営ノウハウの伝達により、営農継続に向けた支援を実施。

応募団体（者）からのアピール・メッセージ

農家は農産物を作り、市場や加工業者に“適正な価格”で販売し、利益をあげる。
普通に営農すれば利益がきちんと出る産業になれば、高度な経営感覚が求められる
6次産業化を推進するより就農人口を増やせると考えている。

大島郡周防大島町大字土居761　Tel：090-5992-8049

21 山口県周防大島町（すおうおおしま）

農泊 | 農林漁業・農村文化体験 | 食育・教育

周防大島町（すおうおおしまちょう）体験交流型観光推進協議会

～ 感動☆島体験 ～

ホームステイ先での船釣り体験

地元の魚を使った家庭料理体験

ホストファミリーとのお別れ

経　緯

○町の基幹産業である農業や漁業などの１次産業と観光交流を結びつけた新たな産業「体験交流型観光」として、観光交流人口100万人の目標を達成すべく、平成20年に周防大島町体験交流型観光推進協議会を設立し、体験型教育旅行の誘致・推進を開始。

取組内容

○平成20年から主に中高生の修学旅行の誘致を開始。
○農業・漁業の担い手にホームステイの受入家庭及び体験のインストラクターになってもらい、みかん栽培やいわし網漁など、古くからの田舎の営みそのままを都市部の生徒が体験。

活動の効果

○都市との地域間交流、若者との世代間交流を通じて、担い手には自身の暮らしに対する誇りや喜びを改めて感じることができる機会となり、元気の源や生きがいづくりに繋がっている。
○体験学習により、生徒自らが地方における農業・漁業の現状や厳しさを実感し、自身で収穫・調理した食事を摂ることで、食育効果や共同活動で培われるコミュニケーション能力向上の効果が図られている。

応募団体からのアピール・メッセージ

過度なおもてなしをせず、偽りのない農山漁村の暮らしそのものを提供し、地元住民との“交流”を目的とし、若者に周防大島町を知ってもらう絶好の機会と捉え、リピーターや情報発信者に発展していくよう、体験交流を通じて地域の魅力をPRしていきたい。

山口県大島郡周防大島町久賀5134　Tel：0820-79-1003

22 山口県田布施（たぶせ）町

農林漁業、農村文化体験

移住・定住

6次産業化

新鮮田布施（しんせんたぶせ）

～未利用魚加工で魚価低迷に倍返し!!～

グループにより加工された商品

移動販売の様子

経　緯

○魚価の低迷、経費の高騰によりベテラン漁業者でも経営が難しい状況下、新規漁業就業者をはじめとする独立型漁業者が、経営の安定化を図るうえで、新たな取り組みが必須であった。

○「自立」「新鮮・安心・安全」「安価」「実力主義」をモットーに、平成17年、協業体「新鮮田布施」を設立。

取組内容

○未利用魚の有効活用と、付加価値の向上のため、鮮魚・フィレ・ミンチ・干物・漬け焼き、フライの半製品（揚げる手前までの行程）など商品開発に取組む。

○補助事業と構成員からの負担により加工施設を整備。

○委託販売先や直売など新たな販路の開拓により、構成員の経営安定と地元消費の拡大に寄与。

活動の効果

○加工施設の維持管理をポリシーの1つ「自立」に則り、構成員の販売利益から維持管理することにより、施設に対する意識が向上し、施設の保全が保たれている。

○未利用魚の有効活用等により、水揚量向上、地産地消、漁業経営の安定に貢献。

○夫婦で取組む事により男女共同参画を実現するとともに、新たな指導者の育成と移住・定住も含めた新規漁業就業者の増加に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

周辺地域のグループとも連携し、新たな取組を検討しています。これからも新規漁業者の確保並びにグループへの新規加入を継続し、地域を活性化していきます。

山口県田布施町　Tel：0820-55-5221

23 山口県田布施町（たぶせ）

食育・教育

その他（コロナに対応した子ども食堂の運営）

山口県立田布施（たぶせ）農工高等学校

～農工から発信！子どもたちのat h❤me（アットホーム）望幸隊～

配食活動しながら、子どもと交流

焼き立てのat h❤me lunch（210食）を提供

経　緯

○東日本大震災をきっかけに、高校生と地域住民で防災食の開発に取り組む。
○「幸せを望んでもらえる活動」との想いから高校生による『望幸隊（ぼうさいたい）』を結成。
○新型コロナウィルスによる、家計が急変した家庭への子ども食堂支援サポートをスタート。

取組内容

○高齢化が進む周防大島町と連携し、防災訓練を実施するとともに、地域住民と情報交換の場を設けることにより参加者が増加。
○アレルギーに対応したノングルテン米粉パンを始めとした防災食の開発。
○望幸隊としての経験を生かし、「子どもたちの心を支えていくこと」を目標とした子ども食堂での配食や食育活動を実施し、支援を結ぶネットワークを構築。

活動の効果

○子ども食堂の配食ボランティアに参加し、要望が多く寄せられた校内や地域食材の野菜をふんだんに使用したメニュー開発・配食により、利用者の増加と地域が活性化。
○休校中、一人で留守番をしている子どもたちのための食育イベントが好影響を生み、一緒に活動する地域ボランティアが数名から20名以上に増加。不安な気持ちの子どもたちの心に寄り添うことで、引っ込み思案だった小学生が、調理体験を全校朝礼で発表するなど前向きな姿に変わり、小学校の校長先生から感謝の言葉をいただいた。

応募団体からのアピール・メッセージ

県内初の高校生主体の子ども食堂の登録と民生委員や教育委員会等と連携した「出張！子ども食堂！」の結成を目標とし、支援を必要とする子どもたちが、人との繋がりを感じ、一緒に笑顔になれる活動を展開していきます。

URL：http://www.tabuse-at.ysn21.jp/　　熊毛郡田布施町大字波野10195　Tel：0820-52-2157

24 山口県平生町（ひらお）

食育・教育　企業との連携　教育機関との連携

柳井（やない）さつき

～野菜っておもしろい！食育で地域活性化！～

山口県農林水産物需要拡大協議会大使就任

親子対象の食育講座の様子

経　緯

○「レタスは軽い方が甘い」、「大根のひげ根は縦一列に生える」など、毎日炊事していても知らない知識を得て、「広めるのが自身の使命」と感じた。

○専業主婦だった2005年に子育ても一段落し、「野菜ソムリエ初級」を取得したことを契機に2008年に中級、2016年に上級資格を取得。

取組内容

○生産者と生活者の架け橋として、野菜・果物の目利き、栄養、素材に合わせた調理法など毎日の食生活に欠かせない野菜・果物の知識を、メディア、料理教室・セミナー講師、食育活動、コラム執筆、レシピ開発、青果販売などにより、幅広く発信。

○2018年に農産物ブランディングチームを発足。これまでの実績と経験、ネットワークを生かし、売れる農作物づくりを提案。

活動の効果

○山口県内全域で、各種料理コンテストや新商品開発における審査委員、広報誌レシピ、食育、栄養分野を講演する中、野菜の摂取拡大を通じた県内の健康増進対策、野菜嫌い対策を積極的に推進。

○農林水産省ボランタリープランナー、山口県農林水産物需要拡大協議会認定「ぶちうまアンバサダー」を通じて、県内農産物の消費拡大や6次産業化の推進に寄与。

応募団体（者）からのアピール・メッセージ

野菜ソムリエの使命である、生産者と生活者の架け橋となるため、農産物のブランディング、メディア出演、講師依頼、レシピ開発、コラム執筆など幅広く活動を実施していきます。

https://satsuki-cafe.com/　　山口県熊毛郡平生町　Tel：080-1923-2241

25 山口県阿武町（あぶ）

農林漁業・農村文化体験 | 環境保全・景観保全 | 食育・教育

農事組合法人 木与（きよ）なぎさファーム

～江戸からの継承、伊能忠敬の恵みを今に！～

地域の有志で行う農地・道路・水路清掃活動

棚田から見る日本海の風景

経　緯

○江戸時代、「伊能忠敬」による全国測量の際に、取水口・水路・排水口等の測量と設計が行われ、これにより、豊かな棚田となった。
○平成22年「木与集落の明日の農業を考える会」立ち上げ、その後、集落の農地を守ることを第一に考え、平成23年「農事組合法人木与なぎさファーム」を設立。

取組内容

○集落一体となった農業生産活動により、集落の農地保全。
○棚田法面へのシバザクラの植栽、集落内水路への鯉の放流、花壇の整備等、集落の景観形成。
○棚田で田植え体験を実施し、地域交流と地域のＰＲを通じ、地域の活性化に努めている。

活動の効果

○機械の共同化、無人ヘリによる共同防除体制の確立、農地外周への獣害防止柵の設置等、集落一体となった活動が実施でき、地域の農地保全が可能となった。
○農業者、非農業者、女性、若者等を含めたコミュニケーションの場の創設。
○木与集落の棚田で開催した「田植え体験」では町外の方の参加もあり、新たな交流が生まれるとともに、地域の活性化が図れた。

応募団体からのアピール・メッセージ

棚田から見る夕日と美しい農村集落の景観は、木与の宝です。
「やまぐち棚田20選」にも選定されている木与の棚田を後世に引き継ぐため法人を中心に農地保全に取組んでいます。

阿武郡阿武町木与667　Tel：08388-2-2512